

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

<b>○事業所名</b>	中央区立子ども発達支援センター ゆりのき			
<b>○保護者評価実施期間</b>	2024年 11月 27日		～	2024年 12月 27日
<b>○保護者評価有効回答数</b>	(対象者数)	58名	(回答者数)	49名
<b>○従業者評価実施期間</b>	2024年 12月 1日		～	2024年 12月 27日
<b>○従業者評価有効回答数</b>	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
<b>○訪問先施設評価実施期間</b>	2024年 11月 26日		～	2024年 12月 27日
<b>○訪問先施設評価有効回答数</b>	(対象数)	38施設	(回答数)	34施設
<b>○事業者向け自己評価表作成日</b>	2025年 2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・対象児童の強みや課題、またはこれから課題となることを訪問先施設と共有することが出来る。	・保育者や教員の日常的な支援のヒアリングを行い、必要に応じて支援内容の助言や提案を行う。	・さらなるニーズの聞き取り方法を工夫し、対象児童を取り囲む関係機関と情報共有を行い、一貫した支援に繋げられるようにする。
2	・対象児童に合わせた訪問時期を保護者と相談し、訪問日を設定することで、対象児童の成長や変化を見て取ることが出来る。	・保護者からの要望だけではなく、フィードバックや面談での聞き取り内容に合わせて、事業所から保護者へ訪問希望の聞き取りを行っている。	・保護者との連絡手段としてSNS(LINE)を活用することで、電話以外でも保護者と連携しやすい体制にする。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・対象児童の困り感に対して、リアルタイムで訪問することが難しい。	・訪問回数に限られている中で、利用方法の提案に難しさがある。	・意向を丁寧に把握しながら、必要に応じて訪問先とも連絡をとり、適時保護者に情報共有を行っていく。
2	・利用希望者数が増加しているため、希望日時に沿えない時がある。	・希望の訪問時期が重なった場合に、人員の調整が困難な場合がある。	・利用状況に応じた人員体制の確保を検討する。
3			